

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	<p>今回、新たに管理者と職員で、「1あんずの家族として穏やかに生活できる 2地域のつながりを大切にし、楽しく交流を図り、開かれた施設でありたい 3見守り待つゆとりを持って、できることを見つけ支援する」を考え出している</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	<p>現在は納涼祭のときにお神輿等に来ていただいたり運動会の見学、近くの神社のお祭りに参加等、地域の行事に参加している。また、これからも地域の行事に参加したいと思う。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方が気軽によっていただけるように、どのようにしたらいいか、話し合っている。また、散歩に出かけた人に立ち寄りいただいている。介護相談や認知症の相談、グループホームの相談があった場合は対応している。	○	運営推進会議等で地域により近づけるようにするにはどのようにしたらいいか検討している。
--				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	以前の外部評価の結果であった「自動ドアの開放」について、職員間や運営推進会議で話し合いを行っている。	○	自動ドアの開放については天気の良い日に、練習を行っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設以来、2ヶ月毎に開催を行っている。出席者は、区長、地域住民、家族、利用者、病院関係者、市職員で行っている。会議には外出行事やボランティア等の助言をいただき、サービス向上に生かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	人員についての基準や、事故の報告書の提出等の必要な状況について等、困ったことがあれば、そのつど市役所に相談している。また、実地指導を利用し困り事等を相談している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は必要な方はいないが、マニュアルを作成し、また、必要な方には援助を行っていくと考えている。	○	現在、利用される方がいないが、相談があれば、対応していく予定である。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は高齢者虐待関連法について話し合い、虐待がどのようなものか理解し、虐待を見逃さないように努めている。また、介護職員としての理念を一人一人が理解している。	○	もし、このような事態が起こったときは、早期に関連機関に報告し、対応していく予定である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所前より、話し合ったり、ホーム内を見学していただき、あなずでの生活に疑問点等を利用者や御家族が質問していただきお答えしている。また、入所時にも同様に、不安や疑問のある点は説明を行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が気軽に意見や要望を言える環境を作っている。また利用者の言葉を常に受け止め話し合いをする機会を設けている。施設内で解決できない場合は、御家族に協力をお願いしたり、運営推進委員会を利用している</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>御家族が会いにこられたときに、管理者、職員が生活ぶりを説明を行っている。病院へ通院後に電話連絡等を行っている。月一回あなず便りを送付しており日々の生活を報告している。</p>	<p>○</p> <p>日々の個別の記録を利用し、玄関にアルバムを置いて利用者の御家族に日々の状況について理解していただけるようにしている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者の家族がお見えになった時に、希望やどのように改善していただきたいか訴えがあったときは早急に対応を行っている。また、意見を言いやすいように意見箱を設置している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>大事なことは、管理者が独断で判断するのではなく、職員と、話し合いで決めている。また、毎月の職員会議のほか、常に職員の意見や提案に耳を傾け、管理者、設置者は運営に反映している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>家族の要望があればどのようにしたらいいかケアカンファレンスでそのつど、業務や記録物をどのようにしたらいいか話し合っている。また、利用者の体調や状態の変化に対応できるよう、話し合いの上で勤務体制を考えている。</p>	<p>○</p> <p>これからも記録物についてや、勤務体制について利用者や御家族の希望に応じて変更していく。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係を維持していくため、現在はグループホームでの移動についてはしないように法人全体で考えている。また、退職された場合、グループホームのケアに適している人物を確保できるように法人内で調整している。</p>	<p>○</p> <p>退職者や移動者が出た場合は、その事をストレートに伝えるのではなく、お休みをしていると伝え、利用者のダメージを最小限に抑えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内の研修会に参加している。また、常勤、非常勤を問わず、全員が研修に参加できる機会を作っている。	○ 法人内の研修会に参加や勉強会を予定している。他にもグループホーム連絡協議会のレベルアップ研修会に申し込みをし、交換研修参加している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会し、研修等に参加している。また、姉妹法人の施設にグループホームがあり、意見や情報の交換を行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩み事を聞くように努めている。また、系列の病院の交友会を利用しストレス解消を行っている。会議終了後、職員同士でお茶会を行っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ケアの結果が見えるように工夫している。また、常に職員同士が声を掛け合えるように工夫している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に可能であれば本人に中を見ていただき、その際、あんずでの生活について説明をお行う。また、本人が無理な場合でも家族の方に中を見ていただき、あんずでの生活をどのようにしていくか希望を聞くようにしている。	○ これからも、入所の際は本人や家族にあんずを見てもらい、理解していただいた上でサービスを利用できるように対応していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所の申込書にご本人の状態について記入する項目があり、また、ご家族や、本人と面談し、現在の困りごとや不安なことについて聞くように努めている。	○ 入所の際にあったては、何が困っていることなのか、不安なことについて聞くように努めている。本人の生活暦等を聞き、どのような生活をしてきたのか、在宅での生活が継続できるように努力している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用の際は、現在どのような状況であるか、聞き取りを行っている。また、入所が困難な場合については、他の施設への紹介等を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人のペースで生活できるように入所時に生活暦の聞き取りを行っている。また、本人の嗜好についても聞き取りを行っている。入所初期はご家族にも御協力いただき、あんずの生活に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に生活するという意味で食事を一緒にとっている。職員も利用者より生け花や大正琴や地域の民話等を教えてもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会については、記録に残しているが、面会簿や面会時間はあえて設けていない。御家族の方がいつでも来れるように対応している。あんずへ来られたときはくつろいでいただいている。また、行事への参加を呼びかけ利用者や利用者の御家族が共に喜びを分かち合えるようにしたい。あんず交流会にご家族を招待している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族にいつもの状況やどのような生活をしているか説明し、また、行事等の参加についての写真をあんず便りに提示し、どのような生活をしているか伝え、また、認知症であっても、御家族が疎遠にならないようにしている	○	御家族の都合で会いにこれないことがある場合でも、通院の結果の報告と共に生活の様子等を伝えている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と馴染みの深い方々が訪問してくれる場合が多く、話をして楽しい時間を過ごしていただく。また、病院で定期受診時に知り合いの人と会うことが多い。	○	散歩や外出行事、病院の通院、知人の来所で馴染みの関係が維持できるように支援していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の会話でお互いが励ましあっているのを見受けている場合は互いの様子を観察し無理に職員が介入しないようにしている。	○	利用者同士の会話でお互いが励ましあっているのを見受けている場合は互いの様子を観察し無理に職員が介入しないようにしている。また、利用者同士、さらになじみの関係が作れるように努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後、病院に入院や姉妹法人内の施設に移った方が多く、継続的に関わりを持ち、面会や相談を実施している。また、買い物時にあった場合でも気軽に声をかけてもらっている。	○	退去後もきめ細やかな対応を継続している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方から訴えられないケースや御家族が遠慮しているケースがある場合はその人にとって何が必要なことであるか、その人を観察しケアプランを作成し日ごろのケアを行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしい暮らしの援助として、入所時、生活歴の聞き取りを行いバックグラウンドの把握に努めている。また、お部屋に持ってきていただくものや、箸、茶碗はなるべく以前から使っていたものを用意していただいている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	排泄のパターンや、バイタル等を観察している。また、昼夜、問わずに様子を観察して、その利用者にあったペースで生活をしていただけるように努力し、職員間の情報交換をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	チームケアのため、入居者の状態の申し送りは常時行っている。月一回の職員会議やケアカンファレンス、申し送りで意見交換を行いケアプランを作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に合わせ、6～3ヶ月の間にアセスメントを再度取りケアカンファレンスを行いケアプランを作り変えている。また、家族の方の支援が必要な場合は、御家族にお願いし御協力いただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録物をみて、アセスメントを取り直し、ケアカンファレンスを行い家族の意見を反映しケアプランの見直し作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	御家族が会いに来られたときに要望等聞きだし、通院やレクレーションの取り入れ等を行っている。また、必要に応じて、訪問看護や、隣接のデイサービスを利用して行く。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員会を利用し、地域との行事に参加している。避難訓練を行うときは近所の人に声をかけたり、消防の人に立ち会ってもらい実施している。また、利用者の方で好みの美容院や理髪店がある場合は、家族との調整を行っている。外部よりの民謡や日舞のボランティアも受け入れている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は利用者は必要としている利用者がいないが、ひつよな場合は行う予定である。また、運営推進会議を利用し館林市独自のサービスについて調べている。	○	現在は利用者は必要としている利用者がいないが、ひつよな場合は行う予定である。また、運営推進会議を利用し館林市独自のサービスについて調べ、利用できるようにしたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	話し合いや援助等、協働できるように、定期的に訪問している。利用者の関係のことも相談している。	○	これからも、地域包括支援センターの方とは連携を密に取って行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医の確認を行っている。また、近隣に24時間受診可能である協力病院があり、月一度定期の通院を行い指導を受けている。そのほか、年2回の健康診断を実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>系列の施設に病院があり、医療が必要なケースであっても協力できる体制がある。これから、医療的な処置が必要になった場合は、訪問看護等を利用していく予定である。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉がけには職員全員が本人の尊厳を大切にし、注意を行い対応している。個人記録は鍵のかかる書庫に保管している。また、入職前に、個人情報の取り扱いについて同意書を撰るようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者には、食事の時間だけを決め、他は、自由に過ごしていただき自己決定できる機会を作っている。また、声掛けを多くするようにし、要望や意見等を言いやすい環境を作っている。また、本人の意向については、記録物や申し送りノートで全員が把握できるようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活できるよう、無理強いはずに、意欲が出る言葉がけを行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	施設のきてくださる、美容師の方、お願いしている方が8名いる。また、カットだけでなく、パーマや染め等を行えるようにしている。在宅で、行きつけのある方が1名で、ご家族につれていってもらったり来ていただいたりして、カットをしていただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時に嗜好について尋ね、食べられないようなものがある場合は、別なものを用意して対応している。また、好きなものを利用者本人から聞き出し、献立に取り入れている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、お酒を飲まれている方が1名いらっしゃる。おやつについては、毎日3時に用意し手作りや、好みにあったものを提供している。10時のお茶の際は本人の好みに合ったものを提供している。	○ 利用者の方の好みの嗜好等は医療的に制限がない場合に限り、実施する予定である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、排泄のパターンの把握に努めている。また失禁のない方も失禁を予防できるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に合わせて週2～3日は入浴できるように支援している。ゆったりと楽しいバスタイムを心がけている。また、プライバシー保護の観点から、個別入浴で対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夕食後フロアで、ゆっくりテレビを見ていたい方は見ていただき、その人の入眠時間にあわせて対応している。パジャマ等に替えていただく。また、夜間、安心して睡眠をとっていただけるように、気づかれないように巡視を行っている。眠れないとの訴えがあった場合は話を聞き安心して眠れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人が持っていた趣味等をレクリエーションに取り入れている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、2名の方がお金を自己管理をされている。また、買い物や外出行事の際にお金を使っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在は寒い季節になったしまったので散歩等は体力のある、希望者にしているが、これから暖かくなってから外出等の機会を設けたい。	○	これから、散歩等に適した季節になるので、散歩や中庭でのイベントを実施していきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	運営推進委員会を利用し、地域の名所やイベント等に出かけていっている。また、利用者の要望も取り入れ外出行事を行っている。	○	利用者の状態や利用者の御家族が可能な限り外出の機会を設けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、本人から電話をかけることをしている利用者はいないが、事務所の電話を利用してもらっている、ご家族から電話があった場合は電話口に案内していることがある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	現在、近隣に住んでる友人の方が会いにきていただいている。また、病院の通院のときや散歩で隣の人や昔のなじみの人と会うことがあり、お互い会話している。	○	病院の通院のときや散歩で隣の人や昔のなじみの人と会うことがあり、お互い会話している。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを実施している。マニュアルを作成し対応している。職員間でも話し合いの機会を設けている。	○	これからも身体拘束を行わないケアを実施していく予定である。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在は番号キーを使用しているが外部からの出入りは自由である。(ご家族には説明済み)	○	現在は番号キーを使用しているが外部からの出入りは自由である。(ご家族には説明済み)また、利用者の方で散歩等を希望されていたり、玄関のところにいる場合は、散歩等に連れ出している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜問わず、利用者の状態について、見守り観察を行っている。	○	現在フロアーに一人いるようにして見守りを行えるようにしている。また、夜間も一時間おきに巡視を行い利用者の安全確認を行っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態に合わせて危険の内容に配慮している。洗剤等の危険なものは十分注意を払い保管場所に取り決めがある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを利用し、申し送り・利用者の所在確認・見守り・声かけ等で対応している。また個々の状態に合わせて対応できるように話し合いを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変時や事故発生時に備え、研修会や会議を持っている。また、マニュアルを活用している。	○	現在は、マニュアルを利用している。また、救命法の研修にも受講している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や協力関係者により年2回消防避難訓練を実施している。また、運営推進会議を通じて地域の方へ呼びかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に家庭起こりうることについて説明をし、同意をいただいている。また、本人のペースで生活できるように取り組んでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、体温、熱、血圧等をチェックを行っている。状態の変化や異常のサインについては迅速に職員間で情報の共有が図れるようにし、必要に応じ早めの通院介助を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに内服の説明が閉じてあり、職員が把握できるようにして服薬を支援している。	○	通院時には申し送りノートに変更になった薬を記載し、服薬の説明をファイルに入れ、職員がだれでも見れるように対応している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝、10時のときにコーヒーや紅茶を飲んでいただいているが、中に牛乳をいれ、便秘予防を行っている。また、日ごろのメニューの中に乳酸飲料、食物繊維が多いものを用意している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は、入居者の能力に応じた促し介助を行っている。また口腔内を清潔を保持している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員と一緒に食事を取ることで、入居者の食事の状態を把握している。職員の申し送りにより、代替食なども工夫している。また、職員の中に栄養士がおり、栄養バランスを考えた献立を作成している。	○	食事量のチェック表や水分量のチェック表を作り、利用者の食事量を把握している。また、嫌いなもの場合は代替食を用意している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策として、マニュアルを作成し実行している。うがいや手洗い等、清潔に注意している。食材は、毎日、発注・納品を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はその日に使い切る良を毎日用意をしている。食器等は乾燥機にかけ、殺菌している。調理器具等はアルコールやハイター等で殺菌している。また、食中毒マニュアルを作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は、バリアフリーになっていて季節の花や植物を置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	まぶし過ぎないように明るさを調整したり、職員も必要以上に大きい声を出さないように対応している。談話スペースにソファが置いてありゆったりと落ち着いた雰囲気ですごせるようになっている。中庭を利用し季節の植物を植えるなど対応している		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファがおいてあり利用者同士がゆったりと過ごせるような空間を作っている。食事等、気のあったまた人と食べれるようテーブルを分けてある。一人になりたいときは、自由に居室に戻ることが出来る		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋の内容は、今まで使ってきたものを危険でなければ自由に持ち込んでいただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に職員が居室の温度や喚起に気を配り、快適な空間作りを目指している。各居室や、フロア、トイレ等に換気扇が設置されており、また、大きな窓があり外からの空気を取り入れられるようになっている。また、乾燥しないよう加湿器や霧吹き等で対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の整理整頓に努め、個々の身体機能を生かすため廊下やトイレ、浴室等に手すりを利用している。また、トイレは車椅子の方でも利用できるように広くスペースを取ってある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	能力に合わせ、自分のお部屋がわからないような方には表札や目印を用意している。また、個別ケアを心がけ、その人に合った生活ができるよう配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭を利用し、リハビリ体操やレクリエーションに利用している。	○	これから、気候が穏やかになってくるので、中庭を利用しイベント(バーベキュー、花火、お茶、外での食事)等に活用していきたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

病院に近いので、医療関係とも連携が取れる施設です。